

# 財 務 情 報 他

令和5年度

学校法人 赤門学院

専門学校 赤門自動車整備大学校

1. 貸借対照表

令和6年3月31日現在		(単位:円)
科 目	金 額	
固定資産	2,620,265,124	
流動資産	3,358,196,925	
資産の部合計	5,978,462,049	
固定負債	17,869,314	
流動負債	64,915,781	
負債の部合計	82,785,095	
基本金の部	2,286,283,137	
繰越収支差額の部	3,609,393,817	
純資産の部合計	5,895,676,954	
負債及び純資産の部合計	5,978,462,049	

2. 収支決算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日		(単位:円)
・資金収支計算書		(単位:円)
科 目	金 額	
学生生徒等納付金収入	189,369,466	
手数料収入	3,902,300	
寄付金収入	8,991,000	
補助金収入	2,149,844	
資産売却収入	300,666,300	
付随事業・収益事業収入	20,952,542	
受取利息・配当金収入	15,251,391	
雑収入	4,466,009	
借入金等収入	0	
前受金収入	25,871,782	
その他収入	56,884,558	
資金収入調整勘定	△56,926,476	
前年度繰越支払資金	3,261,354,737	
収入の部合計	3,832,933,453	
科 目	金 額	
人件費支出	294,646,796	
教育研究経費支出	60,329,334	
管理経費支出	24,489,028	
借入金等利息支出	0	
借入金等返済支出	0	
施設関係支出	39,564,376	
設備関係支出	28,744,870	
資産運用支出	30,636,000	
その他の支出	128,068,504	
資金支出調整勘定	△27,830,125	
次年度繰越支払資金	3,254,284,670	
支出の部合計	3,832,933,453	

令和5年4月1日～令和6年3月31日

・事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目		金 額	
教育活動収支	収 入	学生生徒等納付金	189,369,466
		手数料	3,902,300
		寄付金	9,359,608
		経常費等補助金	2,149,844
		付随事業収入	12,952,542
		雑収入	4,501,433
		教育活動収入計	222,235,193
	支 出	人件費	297,665,828
		教育研究経費	142,092,582
		管理経費	25,454,911
教育活動支出計		465,213,321	
教育活動収支差額		△ 242,978,128	
教育活動外収支	収 入	受取利息・配当金	15,251,391
		その他の教育活動外収入	8,000,000
		教育活動外収入計	23,251,391
	支 出	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額		23,251,391	
経常収支差額		△219,726,737	
特別収支	収 入	資産売却差額	30,300
		その他の特別収入	20,690
		特別収入計	50,990
	支 出	資産処分差額	2
		その他の特別支出	10,712,048
		特別支出計	10,712,050
特別収支差額		△10,661,060	
基本金組入前当年度収支差額		△230,387,797	
基本金組入額合計		△71,192,958	
当年度収支差額		△301,580,755	
前年度繰越収支差額		3,910,974,572	
翌年度繰越収支差額		3,609,393,817	

# 財 産 目 録

学校法人 赤門学院

令和6年3月31日 現在

I 資産の部		法人全体		(単位:円)
勘定科目	内 訳	金 額	科目別計	
1 基本財産	合 計	1,971,780,526	1,971,780,526	
有形固定資産	計	1,971,780,526	1,971,780,526	
土地	青葉区川内川前丁61番地 他	976,412,544	976,412,544	
建物	整備大学校校舎・学生寮・専門職大学校舎及び自動車整備工場	666,443,901	666,443,901	
建物付属設備	上記建物の付属設備	153,486,180	153,486,180	
構築物	上記建物の付属設備	104,562,114	104,562,114	
教育研究用機器備品	二柱リフト・ホイールバランサー 他	56,485,964	56,485,964	
管理用機器備品	業務用縦型冷蔵庫 他	2,958,867	2,958,867	
機械装置	ヘッドライトテスター 他(収益事業会計分)	1,292,434	1,292,434	
什器備品	食券自動券売機 他(収益事業会計分)	310,956	310,956	
図書	専門書	486,394	486,394	
車両運搬具	連絡車 他	168,391	168,391	
一括償却資産	パソコン 他	791,309	791,309	
建設仮勘定	専門大学校第2校舎前カーリフト設置工事	318,059	318,059	
美術品		8,063,413	8,063,413	
2 運用財産	合 計	4,541,212,092	4,541,212,092	
現金預金	計	3,480,817,415	3,480,817,415	
現金	現金手元有高	409,737		
	付属工場(ビークル)現金	12,587,519		
	オートハイテクニカルセンター川内現金	498,413	13,495,669	
郵便振替口座	仙台事務センター	610,673,001		
	萩生郵便局	11,418,583	622,091,584	
郵便貯金	仙台川内郵便局	317,885		
	萩生郵便局	431,940	749,825	
普通預金	きらやか銀行仙台支店	486,301,729		
	七十七銀行二日町支店	39,839,022		
	七十七銀行宮城町支店	27,365,287		
	大和ネクスト銀行	1,977		
	大和ネクスト銀行(外貨)	72,748		
定期預金	三菱UFJ銀行	5,199,535	558,780,298	
	きらやか銀行仙台支店	330,555,178		
	大和ネクスト銀行	1,955,144,861		
その他の流動資産	計	121,008,347	121,008,347	
売掛金	赤門自動車学校 他	4,462,666	4,462,666	
商品	ワッペン・ステッカー・帽子 他	235,312	235,312	
原材料	食材調味料 他	3,372,418	3,372,418	
貯蔵品	募集要項及びパンフレット 他	2,641,841	2,641,841	
仕掛品	付属整備工場仕掛品	55,879	55,879	
立替金	就学支援金返還分 他	2,411,094	2,411,094	
未収入金	未収授業料 他	27,012,439	27,012,439	
前払費用	自賠責保険料 他	3,130,442	3,130,442	
前払金	6年4月1日分出張旅費	4,800	4,800	
仮払金	カード決済払い	100,597	100,597	
預け金	豪ドル建て有価証券利息預け分他	77,580,859	77,580,859	
その他の固定資産	計	939,386,330	939,386,330	
ソフトウェア	学校法人会計ソフト 他	5,001,962	5,001,962	
電話加入権		47,620	47,620	
施設利用権	専門職大学 寄宿舎水道加入金	113,239	113,239	
有価証券	大和証券 他	396,412,273	396,412,273	
収益事業元入金		537,533,286	537,533,286	
預託金	自動車リサイクル促進センター	177,950	177,950	
保証金	マツダパーツ㈱ 他	100,000	100,000	
資産の部 合計		6,512,992,618	6,512,992,618	

# 財 産 目 録

学校法人 赤門学院

令和6年3月31日 現在

Ⅱ 負債の部		法人全体		(単位:円)
勘定科目	内 訳	金 額	科目別計	
1 流動負債	合 計	104,992,703	104,992,703	
	未払金	未払法人税等・諸経費支払未済額 他	57,119,497	57,119,497
	前受金	授業料・前受家賃・付属整備工場等	37,726,818	37,726,818
	預り金	国家試験受験料・アルバム旅費 他	6,329,898	6,329,898
	仮受金	町内会費	600	600
	預り保証金	敷金 他	3,815,890	3,815,890
2 固定負債	合 計	21,122,014	21,122,014	
	退職給与引当金	教職員	21,077,014	21,077,014
	入寮保証金	学生寮の入寮保証金	45,000	45,000
負債の部 合計		126,114,717	126,114,717	
正味財産 合計		6,386,877,901	6,386,877,901	

# 学校法人 赤門学院

## 令和5年度事業報告書

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

### [ I ] 専門学校赤門自動車整備大学校

#### 重点事項

#### (1) 教育計画

##### ① 自動車整備士国家資格について

全科の自動車整備士国家試験の合格率について各科目 100%達成を目指し指導した。

1・2級科2年生については全科目の全員合格は達成できなかったが、日本人クラスは2級ガソリンが90.5%、2級ジーゼルが85.7%であった。留学生クラスは2級ガソリンが97.7%、2級ジーゼルが97.7%であった。1級自動車整備士科4年の1級小型は筆記試験合格率が100%、口述試験は5月12日であり、筆記試験結果は5月28日前後の予定である。3級科3年は3級ガソリン80.0%、3級シャシ、車体整備士は共に合格率100%であった。

##### ② 就職活動について

各科とも自動車関連企業に内定を頂き、外国人留学生も含めて内定率100%を達成することができた。

##### ③ 学力向上対策について

学科授業において、国家試験の過去問題を解くために必要な知識の習得に重点を置いて展開した。各科とも直近の国家試験問題について詳細な分析を行い、国家試験問題をベースとした新規予想問題を作成。新規予想問題を織り交ぜた模擬試験を制作し、協会模擬試験、卒業試験等に向けて模擬試験を活用した繰り返し学習を行った。学生個々の苦手分野把握に努め、苦手克服に取り組んだ。

##### ④ ソーシャル検定について

年間授業計画にソーシャル検定のテキストを使用した学科授業を取り入れ、ビジネスマナーを中心とした教育を行ってきた。ソーシャル検定中級、上級共に対象の学生が受験した。

##### ⑤ 補習授業対象となる生徒及び休退学者を減らすことについて

欠席の多い学生については、昨年度同様、根気強く担任以外の教員も指導を行い保護者にも連絡を密に取り、家庭でも協力して頂いた結果、昨年と比較して減少傾向となったが、時折の発熱や少数ではあるが、新型コロナウイルスやインフルエンザ等での欠席や休校に伴う補習は増加傾向となった。

⑥ 社会教育・躰教育について

学生においては一般教養の時間を中心に、社会人において必要な最低限のスキルについて学習し、レベルアップを図ってきた。進路指導や進路相談では、就職試験での面接試験を想定した立ち振る舞いや会話力の向上、また実習授業では挨拶訓練や学生一人一人が全員の前で話をする「一分間スピーチ」やディスカッションを取り組み、コミュニケーション能力の向上に取り組み、入学時と比べ能力が大きく向上した学生も多くみられた。

⑦ 電気自動車やハイブリッド車の授業への取入れについて

2級科においてはハイブリッド車(トヨタプリウス)を使用した実習を行い、車両の構造や作動、整備時の注意点などを学ぶと共に、救急救命の知識も学び、低圧電気自動車特別教育修了証を取得させた。また1級科においてはプリウス・アクア・ノートe-powerの整備作業に準拠し、高電圧部品の交換作業等を実習授業内で行わせた。

⑧ 2級自動車整備士科の実習選択コースの内容充実について

2級科2年生を対象に「四輪」「2輪・カート・エコラン車両製作」「電装」3つのコースを設立し、学生が希望するコースを受講するスタイルで授業を行い、車両を各体験走行会等で走らせた。自分が関心の強いジャンルの勉強をすることで、楽しみながら教養を深めることができた。

⑨ 学生の授業への取り組み強化について

自動車の高度化に伴い勉強も難易度を増し、理解するのが難しくなってきたことを踏まえ、学生がなるべく理解しやすく興味を持って学習できるようにするため、スライドを使用して動画やアニメーション、パワーポイントで制作したプレゼンテーション資料を活用し、授業を行った。

⑩ 新入生を対象とした作並テストコースでのカート走行体験授業について

令和5年10月25日、10月26日、10月27日と3日間に分けて新入生を対象にカート走行体験授業を実施し、カートを操縦して走る楽しさを体験した。

⑪ 本年度7年目となる赤門杯ラジコンカーレース大会を年3回開催することについて

自動車の構造がどのようになっているか、またその動きを学ぶために実習授業でラジコンカーの組み立てを行い、年3回のラジコンレース大会を計画したが、第1戦(5月9日開催)、第2戦(7月11日開催)、第3戦(10月10日雨天中止)で行った。

⑫ オリジナルカーの製作を通して、技術と造る喜びを感じる授業とすることについて

オリジナルカーの製作は他の授業の進捗上、授業内容変更があり実施が難しく行えなかった。

⑬ 各科でハンドメイドカーの製作を通してものづくりの喜びと興味等を引き出し、学校内でエコランレース大会を開催することについて

エコランレース大会は令和5年7月4日に第1回を、第2回を令和5年9月17日に開催し、ものづくりの楽しさや運転技術を競い合った。

(2) 自動車販売会社及び自動車メーカーによる連携実務授業の計画

- ① 日産自動車(株)による新入生対象「ニッサン インテリジェント モビリティ+EV」  
セミナー …令和5年 6月 13日実施
- ② マツダ(株)及び(株)東北マツダによる技術セミナー、SKYACTIV-D 体感セミナー  
新入生対象… 令和5年6月 14日、9月 28日実施  
1級科3年対象…令和5年 11月 15日実施
- ③ スバルメカニックインターンシップ …令和5年 12月 21日実施

(3) 学生に対する指導

- ① 自動車を扱う職業人として、道路交通法、道路運送車両法を遵守するよう教育を徹底する事や、社会人になる自覚を持たせ人間力（赤門力）を身につける指導を行った。
- ② 学生の四輪自動車、二輪自動車、自転車の整備不良車及び不正改造等を無くするため車両登録時に車両点検を実施した。
- ③ 学生の飲酒運転や暴走運転などの重大な交通事故防止のために、交通安全講話(全学生対象)や交通安全教育(2輪通学者の実技講習は作並テストコース)を行う。
- ④ 学生の健康管理については、年1回の健康診断を全員に確実に受診させ、その結果を以って病院での治療を受ける様指導する。
- ⑤ 社会問題になっている大麻等（危険ドラッグ含む）の薬物汚染から学生を守るため、外部講話も含め徹底した指導を行った。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染防止対策として、状況に応じて体調確認、検温、マスク着用、消毒、換気等の徹底指導を行った。
- ⑦ 学生の安全管理について授業中や休憩時間中の事故防止に努め、事前の指導及び実習開始前の注意説明並びに作業中の注意監視を行った。
- ⑧ 学生の心身に気を配り自殺者の防止に徹底した指導を行った。
- ⑨ 学校内の学生間のいじめやいやがらせなどについての防止対策を強化するため、学生からアンケートにより情報をとり指導にあたった。
- ⑩ 学生の防災意識を高めるため、防災訓練を実施し、緊急時の災害に対処出来るよう指導を強化した。
- ⑪ 学生が経済面で心配することなく安心して学ぶために、奨学金を希望する学生に奨学金が受けられるよう手続きをした。
- ⑫ 就学支援金(高等科)に関して、受給資格者が不正受給等なく正しい期間で就学支援金を受けているか確認した。

(4) 就職指導

- ① 日本人に関しては、求人数が学生数を大きく上回り問題無いが、留学生に関しては、各企業に留学生採用について検討して頂くよう促した。  
宮城県内では輸入車ディーラーの一部を除いては、ほぼ留学生の受入れができる状況と



なっている。東北地区では、県単位によって差はあるもののディーラー自体で留学生の採用を検討しなければならない状況である。

- ② 留学生においては採用試験の際、校内選考等により人数の偏りが起きないように就職課及び各教員で検討し受験先を決定した。

実際のエントリー希望に付いては、偏りのある企業もあるがその際に選考等にて選抜などの対応をしている。

留学生において地域によりエントリー希望者に偏りがある。受入れ企業との調整や成績・日本語能力を考慮した上で、校内選考をしているが現時点では明確な基準や評価方法がなかった為、校内選考基準を設定して校内選考を実施した上で、選考エントリーをする仕組み作りをしている。

(5) 学校の主な年間行事

No.	行事	開催日	変更事項
①	入寮日	令和5年4月7日(金) ～令和5年4月9日(日)	
②	入学式	令和5年4月11日(火)	
③	始業式	令和5年4月12日(水)	
④	新入生対象入学ガイダンス	令和5年4月13日(木)	
⑤	警察による交通防犯講和	令和5年4月17日(月)	
⑥	健康診断	令和5年4月18日(火) ～令和5年4月19日(水)	
⑦	消防訓練	令和5年4月20日(木)	
⑧	交通安全	令和5年4月25日(火)	
⑨	赤門スポーツミーティング	令和5年4月28日(金)	
⑩	第一回赤門杯マジコンカーレース大会	令和5年5月9日(火)	教習所コース内
⑪	赤門カーフェスティバル(日本人)	令和5年5月28日(日)	
⑫	赤門カーフェスティバル(留学生①)	令和5年5月29日(月)	
⑬	赤門カーフェスティバル(留学生②)	令和5年5月30日(火)	
⑭	前期試験	令和5年6月27日(火) ～令和5年6月30日(金)	
⑮	赤門杯エコランレース大会第一戦	令和5年7月4日(火)	教習所コース内
⑯	第二回赤門杯マジコンカーレース大会	令和5年7月11日(火)	教習所コース内
⑰	夏休み	令和5年7月15日(土) ～令和5年8月20日(日)	1・2級2年のみ 7月28日(金)終業
⑱	始業	令和5年8月21日(月)	
⑲	交通安全講習	令和5年8月29日(火)	中止

⑳	赤門学院祭（エコーン大会第二戦）	令和5年9月17日（日）	
㉑	第三回赤門杯ジグコンカーレース大会	令和5年10月10日（火）	天候不良のため中止
㉒	学友会主催芋煮会	令和5年10月19日（火）	
㉓	後期試験	令和5年11月7日（火） ～令和5年11月10日（金）	
㉔	冬休み	令和5年12月16日（土） ～令和6年1月8日（月）	1・2級2年のみ 12月22日（金）終業
㉕	始業日	令和6年1月9日（火）	（各種レース大会の 総合優勝者表彰式を 行う）
㉖	春休み	令和6年3月2日（土） ～令和6年4月9日（火）	1・2級科1年のみ 3月8日（金）終業
㉗	卒業式	令和6年3月22日（金）	
㉘	自動車整備士資格試験日	令和6年3月24日（日）	

## 教職員

(1) 教職員の資質向上に務めることは重要なことであるので、外部研修、内部研修、その他自動車メーカーまたは自動車販売会社による研修を実施して、学生に対する指導力強化を図った。

### ① 外部研修会

宮城スバル自動車（株） 教職員向け研修会

（スバル安全技術等最新技術：8月3日実施）教員2名参加

ホンダ四輪販売南東北 教職員向け研修会

（ハイブリッド自動車技術と整備要領：8月4日実施）教員4名参加

### ② 内部教職員研修会

(イ) 温情のある指導や気配りの出来る指導によりクラスをまとめる。また、コーチング力を発揮できるよう強化した。

(ロ) 自学研鑽を強化し、自身の資質向上に励み学生の満足度を向上させる。

以下の日程により研修会を実施した。今年度は、研修会中止はあったものの、教職員間でのミーティングは数多く行われており、今後も継続していく。

〈実施日〉令和5年8月18日（金）・令和6年1月4日（木）

なお、令和5年4月6日（木）も予定されていたが、中止となっている。

(2) 一級自動車整備士資格を取得していない教員については、令和6年(2024年)3月24日（実施予定）において取得を目指した。

- (3) 働き方改革推進のため労働基準法が改定され、年 5 日の年次有給休暇が義務化されている。令和 5 年度の計画的年休取得は以下の日程で実施した。

令和 5 年 4 月 3 日 (月)

令和 5 年 5 月 1 日 (月)

令和 5 年 8 月 16 日 (水)

令和 5 年 8 月 17 日 (木)

令和 5 年 12 月 28 日 (木)

## 入学生募集

- (1) 東北の各高等学校での進学説明会に参加すると共に、中学校を含め積極的に入学募集活動を行った。
- 高等学校の校内ガイダンスは令和 5 年度 17 回参加・参加者数 57 名。(令和 4 年度は 17 回参加・参加者 112 名) 高校ガイダンスの開催自体は、コロナの 5 類移行に伴い回復しつつある。
  - 高校訪問は宮城県内の進学校を除く全校、山形県は進学校除く、山形市内を中心に実績のある高校 (ガイダンス・見学会参加者、資料請求者、卒業生、在校生等) を訪問。  
さらに、山形市外や他の東北 4 県については高校ガイダンス参加の際、会場付近の高校を訪問した。
  - 中学校は宮城県を中心に訪問した。また県外については高校ガイダンス参加の際に会場付近の中学校を訪問した。生徒 1 人ずつに配布できるチラシを作製し、3 学年の生徒に配布して頂いた。
- (2) 1 級科及び 2 級科入学希望者を対象とした AO 入試を更に浸透させ、入学生の早期獲得を図った。
- AO 入試の周知活動を継続して行い、メリットを伝えていき日本人学生の早期獲得へつなげなければいけない。
  - 留学生の入学が大幅に増加したが、日本人比率が低く、日本人学生の確保が課題となった。
- (3) 当校内での学校見学会及び体験学習を 4 月より令和 6 年 3 月まで行い、入学生の増加を図った。
- (4) 5 月から 3 月まで月 1 回 3 級科希望者対象学校見学会を開催し入学生の増加を図った。
- (5) 6 月 17 日 (土) 及び 8 月 25 日 (金) に赤門授業見学会 2023 (全科) を開催し入学生の増加を図った。
- (6) 7 月 26 日 (水) 体験実習会を開催し、入学生の増加を図った。
- (7) 9 月 15 日 (日) 赤門学院祭でオープンキャンパスを同時開催した。

- (8) 11月18日(土)3級科希望者対象のメカニカルカレッジオープンキャンパス2023を開催し学科及び実習授業の見学、本年度から授業体験の時間も取り入れ、内容を充実させて入学生の増加を図った。
- (9) 各高等学校・中学校及び資料請求者へ見学会案内状を出した。
- 高等学校・資料請求者
    - 6月中・・・7月上旬から開始するAO入試に合わせ学校見学会について
    - 8月中・・・赤門体験実習会について
    - 9月中・・・一般選考開始のご案内
  - 中学校・資料請求者
    - 6月中・・・3級科希望者対象見学会及び専願について
    - 8月中・・・オープンキャンパス・赤門学院祭開催のご案内
    - 10月中・・・メカニカルカレッジオープンキャンパスの案内および専願について
    - 2月中・・・一般選考受付中の案内
  - 資料請求者、高校ガイダンス参加者、学校見学会参加者に「カーフェスティバル」「赤門学院祭」のチラシも合わせて発送した。学校見学会参加者には入学に繋がるようお礼状も発送した。
- (10) 時代のニーズに応えるため1級自動車整備士科の存在意義を高め積極的に募集活動を進めた。
- (11) 国際化時代を踏まえ外国人留学生の入学募集及び受入れを積極的に促進した。
- コロナ禍による入国制限が明けて入国した日本語学校の学生が卒業を迎え、例年より多くの入学希望者があった。在学生への紹介制度の利用やオンライン説明会を行い、全国からの学生確保に務めた。
- (12) 在校生から1級科3年への編入学生、3級科から2級科への入学、また2級科、3級科からの入学を促進するため説明会や各科への見学会を開催した。進学説明会日程は下記の通り開催した。
- 3級自動車科 全学年対象
    - 第1回 4月26日(水)
    - 第2回 7月13日(水)
  - 2級自動車科 1年対象
    - 第1回 4月26日(水)
    - 第2回 7月13日(水)
- (13) 令和7年度の募集要項・学校案内の作成を行い、4月下旬に完成した。
- (14) HP、SNSなどを通して中学・高校生、留学生に新鮮な情報を提供するよう、更新を行った。

## 施設及び設備の環境整備

- (1) 各校舎等の点検・修理・管理を徹底し、学校施設等の維持・管理を行った。
- (2) 実習場及び教室の清掃、整理整頓を徹底し環境整備を図ると共に安全性を行った。
- (3) 実習教材及び実習用機器の維持管理を徹底し、不具合がある場合は、早急に修理または更新などを行い、充実した教材、テスター機器等を提供した。
- (4) 施設や設備に不備が生じた場合は、早急に修理、または、改善するなどして勉学に支障ないように行った。
- (5) 消防用設備等の不具合が発生した場合や不具合の兆候が見られた場合は、早急に修理等を実施し機能の回復を行った。
- (6) 消火器や消火栓のホース等の消防設備、及び火災報知器等の機能点検は法令に基づき、計画的に実施した。
- (7) 地震があった時を想定し、校舎内外の備付備品等、落下物などの環境整備を行った。
- (8) 校舎、学生寮室内外の清掃、整理整頓を行い、学校の環境整備を行った。
- (9) 校舎、学生寮室からの出火を防止するため、可燃ごみの処理や寮室内での喫煙者に対して灰皿には水を入れることの指導、各空室の施錠管理を行うように、教職員及び寮監が校内巡回及び、各寮室の巡回訪問を定期的に行った。  
食堂の保健衛生を強化し、食中毒などの感染症の発生を予防するよう衛生管理を徹底した。  
また寮室での調理についても食材の保管状態等を定期的に巡回訪問にて指導した。
- (10) 感染症対策として特に人の出入りが多い受付、学生食堂、講堂に設置してある自動検温器の点検や受付・食堂等に設置しているパーテーションの点検・補修等を行い安全対策を進めた。  
また、教室や実習室及びトイレ等の入口付近に設置している消毒用アルコールや液体石鹸の残量確認及び液補充作業を行い日々の感染予防対策を徹底した。  
定期的に人が集まる場所や感染が確認された教室や寮については、安全対策を施して消毒作業を実施し感染拡大を抑えるよう行った。

## その他の事項

- 芋煮会について

令和5年10月19日(木)に学友会主催で第6回芋煮会を予定通り行い、各国独自の味付けもあり、学生は楽しみながらコミュニケーションを取っていた。

## 会議の実施状況

### ● 規定の会議について

会議名	No.	開催年月日	議事	備考
理事会・評議員会	1	令和5年5月26日(金) (実出席及びオンライン開催)	第1号議案： 理事欠員に依る補充選任について 第2号議案： (再) 令和5年度収支予算書(案)の承認について 第3号議案： 令和4年度事業報告書(案)の承認について 第4号議案： 令和4年度財産目録(案)、資金収支計算書(案)、事業活動収支計算書(案)、貸借対照表(案)の承認について 第5号議案： 専門職大学用地の名義移転について その他報告事項： 私立学校法の改正について	理事会： 14:00～ 15:25 評議員会： 15:35～ 17:00
理事会・評議員会	2	令和5年12月15日(金) (実出席及びオンライン開催)	第1号議案： モビリティ大学令和7年4月から入学生募集について 第2号議案： モビリティ大学実習棟Ⅱの建設について 第3号議案： 赤門自動車整備大学校令和7年度からの授業料値上げについて	評議員会： 13:30～ 14:45 理事会： 15:00～ 16:15
理事会・評議員会	3	令和6年3月28日(木) (実出席及びオンライン開催)	第1号議案： 評議員欠員による補充選任について 第2号議案： 専門学校赤門自動車整備大学校教頭選任について 第3号議案： 令和5年度収支補正予算書(案)の承認について 第4号議案： 令和6年度事業計画書(案)の承認について 第5号議案： 令和6年度収支予算書(案)の承認について 第6号議案：	評議員会： 13:10～ 15:20 理事会： 12:45～ 13:00 15:35～ 17:45

			<p>赤門奨学金制度の設立及び貸与規程について</p> <p>第7号議案： 専門学校赤門自動車整備大学校学則施行規則第7章出席率第18条（出席時間）変更について</p> <p>第8号議案： 専門学校赤門自動車整備大学校1級自動車整備士科の廃止について</p> <p>第9号議案： 私立学校法改正に基づく学校法人赤門学院寄附行為変更及び申請について</p> <p>第10号議案： 私立学校法改正に基づく学校法人赤門学院諸規程の見直しについて</p> <p>1. 経理規程 2. 情報公開規程 3. 稟議規程 4. 内部監査規程 5. 内部統制基本大綱</p> <p>第11号議案： モビリティ大学令和7年4月からの入学生募集について</p> <p>第12号議案： モビリティ大学実習棟Ⅱの建設について</p>	
教育課程編成委員会	4	令和6年1月25日(木)	「自主性を持たせ、離職しない学生を育てるには」…今までの振り返り	<p>15:00～</p> <p>16:00</p> <p>外部出席委員2名 内部出席委員4名 合計6名</p>
教育課程編成委員会	5	令和6年3月11日(月)	自動車整備士資格制度等の見直しについて	<p>15:00～</p> <p>16:00</p> <p>外部出席委員3名 内部出席委員4名 合計7名</p>

学校関係者評価委員会	6	令和6年2月27日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度自己評価の結果について説明</li> <li>・令和5年度自己評価の結果について審議</li> </ul>	15:00～ 16:00 外部出席委員2名 内部出席委員4名 合計6名
------------	---	--------------	--	---

## [II] 電動モビリティシステム専門職大学

		事業計画	実績報告
教育	重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育課程に沿った着実な授業の実施</li> <li>② 教育の質向上と質保証</li> <li>③ FD研修の実施</li> <li>④ 1年次臨地実務実習の円滑な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育課程どおりにシラバスに基づいて着実な授業を実施した。 コンソーシアムやまがたに参画し、単位互換メニューを提示し、令和5年後期から、単位互換を開始したが、派遣・受入れともに実績はなかった。</li> </ul>
	具体施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① カリキュラムポリシー及び授業時間割に則った授業・試験成績評価を着実に実施する。実施に必要な教材・教具を授業に支障がないよう整備する。 県内高等教育機関で組織するコンソーシアムに参画し、単位互換等大学の魅力向上のため、教育に幅を持たせる。</li> <li>② 教務委員会を中心に出席率、GPA及び授業評価アンケートから授業等の点検を行い教育の質を向上する。 学生が行きたいと思える就職を実現するため、学生委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 教育の質向上と質保証 学生による授業評価を10月と3月に実施した。評価結果は、授業担当教員へフィードバックし、次の授業の参考に資するとともに、統計データをホームページに掲載し、公表した。 一部の授業科目で、理解不足の学生に対して補習授業を実施し、学生支援を行った。企業等からの求人募集情報を掲示等で学生に周知した。研究ゼミナールやオフィスアワー等で学生のキャリアプランに応じた助言指導を行った。</li> <li>③ FD研修の実施 共同授業やオムニバス授業など複</li> </ul>



		<p>会の就職担当が1年次から活動を始める。</p> <p>③ 大学教育未経験者を中心に授業参観等のFD研修を実施し教育方法の向上を図る。</p> <p>④ 受入れ企業との実習内容等の事前打合せを経て、巡回指導、評価まで、受入れ企業と大学との連携を密にして円滑な実習を行う。</p>	<p>数教員が担当する授業について、相互に授業参観を行い、授業後のディスカッションで教授法の向上を図った。</p> <p>また、教授会前後に学生理解の研修や研究倫理、技術流出防止ための研修を計3回行った。</p> <p>④ 1年次臨地実務実習の円滑な実施 1年次学生が3社で実習を実施し、無事終了した。教員の巡回指導も予定通りであった。学生への事前指導が細部に及んでいなく、特に学生の指導を受ける姿勢等に関し受入れ企業に御迷惑をおかけしたため、次年度実施に向けた改善点として、事前指導の徹底と受入れ企業との事前打合せをより緊密に行うこととした。</p>
研究	重点項目	<p>① 研究環境の整備</p> <p>② 研究活動の推進</p>	<p>① 教育環境の整備を最優先にし、研究環境の十分な整備までには至らなかった。</p> <p>② 研究環境を自前で整えることを目的として、これまでの研究成果を基に、環境省等の国が募集するプロジェクト（3件申請）や科学研究費補助金（5グループ申請）への応募を行ったが、何れも採択までには至らなかった。</p>
	具体施策	<p>① 各教員の当面の研究テーマに沿った実験・実習場所の配置、備品、消耗品の購入等環境の整備を行う。</p> <p>② 研究成果の早期実現を促し、学会発表、学術成果公開や発明特許等の知的財産を所有して、大学のステータスを確立する。</p>	
社会貢献 地	重点項目	<p>① 地域・産官学連携の推進</p> <p>② 社会貢献の推進</p>	<p>① 研究シーズ集を作成し、関連企業に送付した。また、3月19日に山形県と連携してシーズ集発表会を山形市で開催し、20社を超える県内企業の参加を得て成功裏に終わった。民間企業からの受託事業1件を受け入</p>
	具体	<p>① 大学教員のシーズ集を作成し、連携できる研究分野の周</p>	

域 連 携  産 官 学 連 携	施 策	<p>知を図る。その上で、山形県、飯豊町等地方自治体のニーズ調査を実施し、受託事業等の事業経費を含めた受入れを推進し、学生の社会実務教育の場とするとともに、地域の発展に寄与する。民間機関との共同研究等研究経費を含めた締結を推進し、我が国の自動車関連分野の発展に寄与する。</p> <p>② 山形県、飯豊町等地方自治体の審議会等委員に教員を派遣し、地域の発展に寄与する。</p> <p>③ 本学において学術シンポジウム・ワークショップなどを開催して、他の高等教育機関・企業・省庁との連携を図る。</p>	<p>れて、200万円の外部資金を獲得した。</p> <p>② 学長及び学部長が、県主催の自動車産業振興会議、県内高校校長会・教頭会、県内私立高校協議会等に招かれ大学紹介を兼ねた講演を行った。また、県内高校の理科教員研修会を本学で実施した。</p> <p>③ 山形県、飯豊町と本学が発起人となり電動モビリティ地域共創コンソーシアムを設立し、7月8日に設立記念講演会を本学で開催した。現在の会員は14社に及ぶ。また、3月14日に山形県主催の再生可能エネルギー導入促進セミナーを本学で開催した。</p>
海 外 連 携	重 点 項 目  具 体 施 策	<p>① インターンシップ受入れ企業の確保</p> <p>② 研究者交流等学術交流の推進と姉妹校締結</p> <p>① ヨーロッパ、アメリカの自動車メーカーを中心に、2年次及び3年次の臨地実務実習の受入れ企業を複数社確保する。</p> <p>② 先行の専門職大学を含め、国内外の高等教育機関との連携、学術交流を推進し、継続的な連携を約束する姉妹校締結に繋げていく。</p>	<p>① ドイツ及びアメリカの自動車メーカーとインターンシップ受入れについて調整を継続しているが、契約締結までには至っていない。</p> <p>② 東南アジアを中心に相手機関を模索中であるが、協定締結までには至っていない。</p>
学 生 募	重 点 項	<p>① 学校推薦指定校の拡大</p> <p>② 入学者選抜試験の多様化・拡大</p>	<p>① 令和5年4月から高校訪問を実施し、新たに28校と協定を締結し、合計48校の学校推薦指定校となり、令</p>

集	目	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ オープンキャンパスの充実</li> <li>④ 高等学校教員との連携強化</li> <li>⑤ SNS等を活用した募集 PR 活動の推進</li> <li>⑥ 11 月末時点の出願目標数の確保</li> </ul>	<p>和 6 年度の推薦依頼を行ったが、志願者はなかった。</p> <p>② オープンキャンパス参加型の総合型学生募集、大学共通テスト利用の一般入試を新たに設定し入試を行ったが総合型選抜で 1 人、一般選抜で 1 人の志願者、受験者、合格者に留まった。総合型での追加募集も行ったが、志願者はなかった。</p>
	具体施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本学の目的、教育の特色等の魅力を高校側に伝え、30 校以上の推薦指定校を確保し、受験者増加と入学定員の確保を目指す。</li> <li>② 総合型選抜試験の多様化と実施回数の増加を図り、選抜試験回数を 8 回以上実施し、受験者増加と入学定員の確保を目指す。</li> <li>③ オープンキャンパスを 2 回以上実施し、200 人以上の高校生参画を目指す。</li> <li>④ 年間 300 回以上の高校訪問や企業等外部が主催する大学説明会への参加を通じて、高等学校教員・生徒の本学理解と志願者の増大を図る。</li> <li>⑤ ホームページ、プレスリリース、SNS (Facebook、Twitter、Instagram、LINE) 等を活用し、本学の魅力を発信し続け本学の認知拡大を図る。</li> <li>⑥ 以上の施策により、11 月末時点の出願数 80 件超、最終的な総出願数 120 件を実現する。</li> </ul>	<p>③ 飯豊町からの補助金による EV フェスティバルとセットでオープンキャンパスを 3 日間実施し 134 人（内高校生 23 人）の参加があった。その際に実施したオープンキャンパス参加型の総合型入試エントリーには数人の参加があったが、受験までつながった高校生は 1 人であった。</p> <p>④ 年間延べ 200 校以上の高校訪問を実施し、校長や進路指導教諭に対し説明を行った。8 月のオープンキャンパスの参加者及び 11 月の推薦入試や総合型選抜の志願者の実情から、高校生に直接アピールできる機会を設定することが重要と反省し、出張講義メニューを作成し周知するとともに、各高校への働きかけを行ったが、実現には至らなかった。令和 6 年度には、コンソーシアムやまがたを通じての大学説明オフナーが 3 校から既に頂戴している。</p> <p>⑤ SNS の発信を継続するとともに、地元 FM ラジオ局に大学広報用番組を組んでいただき毎週教員が参加して PR を行っている。</p> <p>⑥ 以上の施策を講じたが、結果的に 2 人の志願者のみとなった。今後は、直接高校生にアピールできる広</p>

			報に重点を置いて実施することとする。
組織運営	重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 意思決定・執行の迅速化と自立化の推進</li> <li>② 学内各種委員会機能の実質化</li> <li>③ 法人本部との連携の推進</li> <li>④ 中期目標・計画等の立案、自己点検評価と文科省への履行状況報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教授会を毎月1回開催し、意思決定の迅速化が図られたが、予算執行に当たっては、学長に権限が委ねられていないため教育研究活動に支障が生じる場面があった。</li> <li>② 広報委員会等必要に応じて委員会を開催し、大学運営の効率化を図った。</li> </ul>
	具体施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本学の最高決議機関である教授会を毎月1回以上開催し、意思決定の迅速化を図り、予算を含め学長が即時執行できる体制とし自立化を確立する。</li> <li>② 上記教授会の下部組織として5つの学内委員会を置き、教授会の決定事項に基づき、調査・執行を行い、大学運営の効率化を図る。</li> <li>③ 理事会・大学連絡会議を年数回開催し、相互理解と意思疎通を図り、法人全体の発展に寄与する。</li> <li>④ 本学の中期目標、中期計画、年度計画を策定し、その執行状況を自己点検評価し次年度の改善に活かす。このPDCAサイクルを土台にして文科省への履行状況報告書を作成し提出する。</li> <li>⑤ 年度末に教育・研究・社会貢献の成果を公開して、学内活動の見える化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 理事会・大学連絡会議を数回開催したが、就業規則の検討に大部分の時間が割かれ、実質的な情報共有の場とはならなかった。</li> <li>⑤ 中期目標・計画を立案し、教授会で承認後、制定した。年度計画は事業計画を流用し本実績報告を年度報告書として蓄積していくこととし、文部科学省履行状況報告や来るべき認証評価に対応する。</li> <li>⑥ 現在、教員の個人評価を実施・集計中であり、それを取りまとめて統計データとしてホームページに掲載する予定である。</li> </ul>
財務	重点	① 財政基盤の安定化に向けた土台作り	① 開学初年度は、学生確保が進まず、当初の計画（予算）通りの収入が確

戦略	項目	② 企業との研究費及び国の競争的資金の外部資金の獲得	保できなかった。また、法人本部と大学との連携強化も今後の課題となった。 ② 研究環境を自前で整えることを目的として、これまでの研究成果を基に、環境省等の国が募集するプロジェクト（3件申請）や科学研究費補助金（5グループ申請）への応募を行ったが、何れも採択までには至らなかった。一方、民間企業からの受託事業1件を受け入れて、200万円の外部資金を獲得した。また、飯豊町から297万円の補助金を獲得し、オープンキャンパスとセットでEVフェスティバルを開催した。 ③ 慶応義塾大学と連携し、令和6年度環境省事業に申請するべく調整中である。
	具体施策	① 2023年度配分予算を適切に執行するとともに、自己点検評価を行い2024年度予算の作成に反映させ、財務基盤の安定化を図る。 ② 民間機関等との共同研究、受託研究、奨学寄附金といった外部資金の獲得を推進するとともに、科学研究費・省庁補助金など国の公募プロジェクト等に申請し、大型の外部資金獲得を目指し研究活動を推進することで、法人本部からの予算配分を軽減し法人全体の発展に寄与する。 ③ 慶応義塾大学等共通のテーマを持つ大学との関係を結び、競争的資金を共同で申請する。	

### 【Ⅲ】収益事業

#### (1) 自動車整備業について

ビークルコクブン48に関しては、令和5年度が企業会計の会計基準である減損会計基準に従って減損処理を適用した後の最初の年度である。

工場収入については前年度に比べ、約160万円（約3%）減少した。その中で、金額が大きかったのは、四輪車検が約110万円（約7%）、大型一般整備が約80万円（約10%）であった。大型車については、一般整備・車検・点検全て前年度を下回った。逆に前年度に比べ収入が増加したのは四輪一般整備が約110万円（約7%）であった。今後収入を増やすためにも、人材の確保や広告宣伝の強化などの対策を検討していく。

#### (2) 貸間及び不動産業について

- ① ビークルコクブン48の家賃収入は前年度に比べ、約130万円（約9%）減少しており、空いているスペースの賃貸業からの不動産収入を強化し不動産業へシフトしていく効果はまだ出ていない。

- ② シェルメゾンに関して、空室が2室あることから、引き続きこちらで直接管理することによる全体のきめの細かい管理（入居募集広告及び部屋の修繕）を行い、入居率を上げていく。

※ビークルコクブン 48 で現在貸出している状況（令和6年3月31日現在）

	区画	面積 (㎡)	主な用途	使用状況
①	C棟1階	30.0	倉庫	空き
②	D棟	61.6	倉庫	入居
③	B棟	42.5	倉庫	入居
④	A棟2階	50.0	事務所/作業所	入居
⑤	A棟3階	151.0	作業所	空き
⑥	A棟2階	67.8	倉庫	空き
⑦	A棟2階	513.0	事務所	空き
⑧	A棟3階	402.0	事務所/作業所	入居
⑨	C棟1階	258.0	作業所	空き
⑩	C棟2階	297.9	寮	入居
合計面積 (㎡)		1,873.80		

※シェルメゾン・川内パシヨンの現在の入居状況（令和6年3月31日現在）

物件名	部屋数	入居数
シェルメゾン	8	6
川内パシヨン	10	8